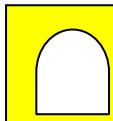


日吉台地下壕保存の会会報



第104号
日吉台地下壕保存の会

新年を迎えて

日吉台保存の会会長 大西章

日吉台地下壕保存の会の皆様明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひします。

昨年は3月11日に東日本大地震、そして福島原発事故と今までの考え方を覆すことが起こりました。地震に際し亡くなられた方々に心からご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。被災にあった県、市町村が全力で復興へ向けて努力し、また日本各地からボランティアの方々が駆け付けました。あの色の無くなつた風景から徐々に人間の生活の香りが映し出されるカラーの景色になってきました。人が頑張って活動している姿ほど美しいものはないあらためて感じています。

しかし、未だにインフラ整備が遅れ、仕事がなく、故郷を後にしていく人がたくさんいる現実。福島では今後何十年と自分の土地に帰れない人がいる現実。厳しい現実がまだまだたくさんあります。

ただ思い出して欲しいのは事故当初福島原発を廃炉にしない方法とか、メルトダウンはしていない、放射能漏れも Chernobyl に比べると少ないから安全等の報道が新聞・TVで流れ続けました。一見正しそうなある情報が一方的に流れ続けました。

また、全国紙ではあまり報道されていないことですが、八重山教科書採択問題が昨年から続いています。天皇、自衛隊やPKOのことが目立つ教科書を一方的に(合法的と言っているが)採択されました。それに反対する署名が行われ石垣市は30,870人、竹富町は1,916人が集まりました。石垣市の人団は4万7千人、竹富町の人口は3千8百人を考えると、驚くべき高さで、本当に地元では大問題だと思います(全国でも大問題ですが)。その要請を文科相は無視続けています。マスコミは流さなければいけない情報を正確に流しません。

最近流れている情報はあることを隠ぺいするような意図的な情報や中央に都合のよい情報が目立つ気がします。問題を正しく判断することが困難な状況になってきています。それを克服するにはフェイスブックなどで直接情報を得るか、または自分の生活をもとに考えて行くことだと思います。

日吉台地下壕保存の活動は人間一人ひとりの命をどうしたら守っていけるかが運動の基本だと思っています。この問い合わせにどうしたら答えられるかを模索しながら、微力ではありますが活動していきたいと思います。

目 次	
挨拶 新年を迎えて(大西章)	1p
資料 日吉をガイドする講座 慶應義塾における「学徒出陣」(白井厚)	2p~6p
お知らせ 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座	6p~7p
報告 慶應義塾大学寄宿舎が「横浜市歴史的建造物」に認定される (亀岡敦子)	7p~8p
報告 慶應義塾大学寄宿舎南寮見学記(谷藤基夫)	8p~10p
転載 かながわ新聞感想文コンクール(阿部みのり)	10p~11p
報告 横浜の3つの外人墓地をめぐるツアーに参加して(金子憲)	11p~13p
報告 三つの外人墓地をめぐるウォーキングに参加して(佐藤宗達)	13p~14p
報告 矢上小学校地下壕見学後記(長谷川崇)	14p
連載 地下壕設備アレコレ(その4)(山田譲)	14~15p
お知らせ 日吉をガイドする講座	15p
活動の記録	16p

《日吉をガイドする講座》

慶應義塾における「学徒出陣」 '11.12.10 白井 厚

- 1925 治安維持法 現役将校学校配属令公布 小泉と野呂、教室でマルクスの価値論論争
- 1926 野呂栄太郎、軍事教練反対運動で検挙される(学連事件) 1931 満州事変
- 1933 小泉信三塾長に就任 野呂、警察の拷問により死
- 1935 予科新入生に断髪令、大ストライキ起こる 1937 蘆溝橋事件、日中戦争開始
- 1938 御真影と教育勅語奉戴式 この頃学生狩り盛ん 日本経済事情研究会の29名逮捕
- 1940 大学評議会、塾生の道徳向上と武装準備を決定、『三田新聞』の学生達検挙される マルクス主義関係和書200冊閲覧禁止命令が出て三田警察は図書館に提出を求める
- 1941 国防学開講 日吉の競技場で報国隊結成式 真珠湾攻撃 繰上げ卒業始まる
- 1942 報国隊週番制実施 シンガポール陥落祝賀行進 横浜事件起こる
- 1943 大学院私学差別問題 全塾生に断髪令 亜細亜研究所開設 豊田四郎助手検挙 「学徒出陣」 最後の早慶戦 塾生出陣壮行会 『三田新聞』に丸山真男の福沢論
- 1944 軍令部第3部日吉へ。地下壕掘削開始 獣医畜産専門学校開設 藤原工大が塾工学部となる 学徒勤労動員 連合艦隊司令部(豊田副武長官)日吉へ 年末に授業停止
- 1945 東京大空襲 三田 日吉 信濃町など被災 敗戦 米軍日吉キャンパス接收



白井厚氏

序幕 大正デモクラ西イ 自由主義的風潮が広まり、政治や社会制度の改革、社会主義などの運動が進んだ。福沢の影響が強い慶應義塾は、洋学特に英米系の経済学中心、個人主義、功利主義、実学を重んじる。陸軍予科士官学校歴史教科書には、“天ハ人ノ上二人ヲ造ラズ....”は英國自由平等思想の移植で天皇親政の本義を没却している、と福沢を批判

第1幕 特高警察と陸軍の将校 昭和になると軍国主義が広がり、思想統制が厳しくなる。大学でも戦争のための教育や研究が増え、大学の兵営化、学生の兵士化が強まった。しかし学内では配属将校や特高がいても比較的の自由。高橋誠一郎や板倉卓三など自由主義的教授の講義を聴くことも出来、自由主義の伝統は、『きけわだつみのこえ』に載っている学生上原良司、宅島徳光らの遺書においても確認される。

第2幕 大戦争開始 戦前の小泉塾長は自由主義者だったが開戦後積極的に戦争に協力、断髪令を出し、学生はまず強き軍人たれと説いた。教員や学生で左右の目立った行動は少なく、弾圧による逮捕者は多くない。体制順応。配属将校はあまり凶暴ではなく、塾長に抑えられていたようだ。学園に教練服でゲートルの学生が増え、軍服で講義する教授も。

第3幕 「学徒出陣」 学生の徴兵猶予停止。若者の戦死が激増する中で、教育界をも戦争モード一色に染め上げる悲壮な政治的・軍事的式典。出陣学徒代表—“生等もとより生還を期せず”(東大生江橋慎四郎)、“諸兄が戦場に赴くことは決して学徒たるをやめることでないと等しく、吾々学窓に留まるものも決して兵士たることを忘れ去ることではないのであります。”(慶大生奥井津二) 「軍隊に行く一死ぬほど嫌1割、いざ征かんという勇ましい者が2割、私はそのど真ん中、しかたないという感じでした。」 石井、『証言』p.179.

第4幕 海軍丘へ登る 軍令部第3部や連合艦隊(海軍総隊)司令部が日吉に入ったため、海軍との物理的接触が大きい。学園において点と線だった軍隊は、遂に面になりたちまち立体

となつた。象牙の塔の一郭は最重要な軍事施設と化し、もし米軍がこれを知れば真っ先に空襲や砲撃の対象となる。ここからフィリピンや沖縄の海戦、特攻隊や戦艦大和の出撃が命令された。

第5幕 米軍による接收 敗戦後は日吉キャンパスが米軍に接收され、最大の戦災校、被害校。教室を求めてさまよう慶應義塾。登戸へ、蟹ヶ谷へ。いつまでも残つた米軍カマボコ兵舎。

第6幕 戦争遺跡保存と戦没者調査 戦争体験者激減の今日戦争遺跡の重要性は言うまでもないが、慶應義塾は大学の中に巨大な戦争遺跡を持つ稀有な例。しかも大きいだけでなく海軍の中枢であり、実際に使用されていた。これを研究し多くの人がこれを見ることによって歴史を学ぶ目が開かれるであろう。そして資料や遺跡に接する場合に重要なことは、もちろんそれに関連する人間のこと。中でも戦没者調査は、慰靈でもあり、戦争の性格を定める重要な要素にもなる。戦争史研究の基礎。また後世に対する深刻な警告でもある。

☆「学徒出陣」とは何か☆

1. 軍隊—志願か徴兵か

米英は志願制、特別の場合のみ徴兵制。日本は国民皆兵をうたい、義務教育・納税・兵役(男子のみ)は国民の3大義務。満20歳になるものは徴兵検査。

2. 徴兵制における特権階級 良心的徴兵拒否

徴兵検査に合格すれば全員兵役。米英などでは宗教上の理由から兵役を拒否できた。

戦後はドイツでも替りの奉仕活動をすれば拒否できた。今は徴兵制自体を廃止。

日本では中学以上の在学生は卒業または27歳まで徴兵延期。(兵役法 後に改正)

3. 【皇国史観と軍国主義】 アジア太平洋戦争 国策の誤り—植民地支配と侵略(村山談話) 上の二つが軍隊の中を貫徹。万世一系。天壤無窮。万邦無比。天皇を中心とする神の国。聖戦。統帥権の独立。八紘一宇。上官の命令は朕の命令と心得よ。(軍人勅諭)

4. 12月8日の悲劇 戰略なき戦術 世界を敵に回した奇襲 虚偽の大本営発表

日中戦で国力疲弊。軍需品生産力の圧倒的な差。主要物資米は80倍、石油は500倍。国際法無視による勝利、宣戦布告なし。今に至る“卑怯な日本。”相手国の国民感情読めず。国体神話にすがる。先ずコタバル上陸。9軍神の捏造と戦意高揚大運動。

5. 「学徒出陣」とは? 間違いだらけの『広辞苑』、『朝日新聞』

「太平洋戦争下の一九四三年、学生・生徒(主として法文科系)の徴兵猶予を停止し、陸海軍に入隊・出征させたこと。」—『広辞苑』第6版。

新聞その他もこれに追随するので時々注意する要あり。

《誤り》 *1943年だけでなく翌年も出ているし、形態は多様。

*徴兵猶予の特典は、すべての学生・生徒について停止された。徴兵検査に合格した理工・医・農の一部・教員養成などの学生・生徒は、「国家の必要」という理由で勉学のために入営延期となった。

*出征とは、天皇に逆らうものを征伐に行くという意味だから、今の世に説明として使うのは不適当。

*当時の用法としても、「出征」とは兵役を終えた予備役や補充兵が、戦時に召集令状を受け取り戦場に向かうことだから、学徒の場合は兵役を終えた者か虚弱者でないと出征兵士にはならない。

定義=懐疑的な学生をも戦場に送り出すためのジャーナリストイックな犯罪的な造語だから「」を付けた方がよい。その種類も多様だが、強いて定義すれば:—アジア太平洋戦争において戦死者が増え下級将校が不足したため、特に航空機要員確保のため、政府が1943年学生・生徒の徴兵猶予の特権を10月2日の勅令によって停止し、徴兵検査を受けさせて合格者を軍に投入したこと。翌年も続いた。理工医系などの学生は、国家の必要から入営を延期し、勉学させた。

6. 小泉信三塾長の戦争協力

幼児に福沢に接す。父も塾長。テニスの選手、優れた経済学者、自由主義者が開戦後は積極的に戦争協力、学生への影響大。「学生はまず強き軍人たれ」「肉体的精神性的武装」「良く生きて良く死ぬ」「徹底的勝利を」「大君の御為めに」「忠孝不二」……

反省～吾々は学ばざるがために敗れ、学ばざるがために戦うべからざるにたたかいました。「塾生諸君に告ぐ」1945、「あまりにもひどい“悪夢”」1963.

戦後は皇太子明仁の教育係

7. 10月16日・歪められた「最後の早慶戦」

実現に最も努力したのは平井新教授(野球部長)だが、小泉塾長の功績とする映画『ラストゲーム 最後の早慶戦』(神山征二郎監督)が“史実に即して造られた”感動の実話！“として上映され、影響大。小泉さんが見たら、直ちに訂正を要求するだろう。

平井教授はかつて「出陣学徒壮行野球戦に思う」と言う原稿を『三田評論』のために書いたが、短縮を求められたので発表を止めた。そこには、あの試合は小泉塾長の発想ではない、野球部同士の対部試合にすぎない。試合の翌日、独断専行、越権を塾長から叱責された、ということなどが記されている。

この映画の誤りなどについては、白井が次のメディアで発表。

TBS テレビ <報道の魂>「白雲にのりて君還りませ 学徒出陣と最後の早慶戦」
08.8.17

□『週刊文春』「最後の早慶戦」 小泉信三は怒っていた 08.10.9号

8. 21日・文部省など主催の神宮外苑における壮行会 宮沢・レーン事件

この会における東京帝大文学部学生江橋慎四郎の出陣学生答辞「生等もとより生還を期せず」という言葉は有名だが、その前に慶大医学部学生奥井津二が送る側の学生を代表して壮行の辞を述べた。直前まで経済学部の宮沢晃が予定されていたが、宮沢の兄(北大生)が「宮沢・レーン事件」でスパイとされ受刑中だったため、急に奥井に替わったのである。これは全くの冤罪事件で、「学徒出陣」の壮行会にも影響。ハイライドの背後にはすぎましい特高警察による弾圧があった。

9. 「学窓に留まる学生も兵士たることを忘れず」「生等もとより生還を期せず」

上述の壮行会における慶大生の発言に、学生は兵士たることを忘れず、とある。真理を学ぶはずの学生が徴兵検査の前から兵士だと自認し、大学は兵営と化す。また東大生の発言は、現実に戦場へと向かうはずの「出陣学生」の心に重く響き、「義は山嶽よりも重く、死は鴻毛よりも軽しと覚悟せよ」という『軍人勅諭』、「大君の辺にこそ死なめ顧みはせじ」というような歌とつながって、若者の死の影を強めていく。

10. 11月10日・『三田新聞』の「学徒出陣特集号」の謎 25日・丸山真男の福沢論掲載
慶大における著名な学者に、社会思想史の小泉塾長と、経済学史の高橋誠一郎教授がいた。学生が編集する『三田新聞』は「学徒出陣」特集号でこの二人にも原稿を頼み、小泉は「征け諸君」と題して、敵弾が雨あられと飛んでくる時も大君のために勇敢に戦え、戦いがない朝夕は大君のために体を大事にせよと書いた。それに対して高橋教授は、12月には入隊する学生たちが教室に集まって肅々と講義を聴く状況を讃えて、これはかつて戊辰戦争で上野の山が燃え上がった時砲声を聞いても学問を止めなかつた慶應義塾の再現だと記した。つまり結果が分かっている無益な戦争に夢中になるなど学生に諭したのである。このような原稿を受け取った編集部の学生は、勇ましい塾長の原稿ではなく、平和主義者高橋教授の原稿を一面トップにして新聞を作った。

その次の「出陣特集」において『三田新聞』は、戦意高揚の論文ではなく、若き丸山真男に当時の全体主義・思想弾圧に対する批判を籠めて独立自尊；自主的人格の精神を対置した福沢諭吉論を書いてもらった。この小論は、戦後の丸山の活躍の出発点と

なった。

11. 戦没者名簿が語るもの

□白井編『アジア太平洋戦争における慶應義塾関係戦没者名簿』慶應義塾福沢研究センター発行、2007.

この名簿は16年間の調査による2223名の名簿だが、現在はその後の調査により3名増えて、2225名の名が明らかとなっている。

この名簿には膨大な注のほかに各種の統計、地図、解説などがついているが、それらによって明らかになったことを示すと、

- * 他大学の戦没者名簿は戦没者の定義や対象期間や調査法などが皆違うので単純に比較はできないが、人数だけでみると慶應は早稲田に次いで2番目で、東大、一橋、中央、京大、拓大、立教などがこれに続く。慶應は戦没者が特に多い大学である。
- * 慶應の戦没者数を地域別に地図上で示したが、フィリピン、中国、日本本土、ビルマ、ニューギニア、沖縄などの順に戦没者が多い。日本軍戦没者の6割以上が餓死という研究があるので、塾関係の戦没者も補給困難な激戦地ではかなり餓死による死と考えるべきだろう。
- * 戦没年別戦没者数のグラフを見ると、昭和20年には1044名という全体の約半数の戦没者が出た。8月に終戦なので、もし半年早く戦争を止めていれば、戦没者は半減したかもしれない。国体擁護にこだわった戦争継続の犠牲は極めて大きかった。
- * 1943年の「学徒出陣」で入隊した学生（大学生）・生徒（大学予科、旧制高校、旧制専門学校生）は約10万人、44年には徴兵年齢が19歳に引き下げられたのでかなり多いはずだが不明。慶應義塾では43年に3000余名が出陣したと言われ、そのうち約500名は予科生。
- * 塾関係の戦没者2223名のうち何名が「学徒出陣」か。19年仮卒業者、仮卒にならなかった大学3年生、2年生、1年生、予科生、高等部生、商工学校生など早計385名が「学徒出陣」戦没者である。塾関係の全戦没者の中で17.3%と意外に少ない。他の大学においても大同小異であろう。これは、入隊しても本土決戦のために本土に留まった者、激戦地に兵員を輸送する船がなくてとどまっているうちに終戦になって助かった者が多いためであろう。したがって、「学徒出陣」者の戦没だけを調査したのでは、8割以上の戦没者（多くは一家の支柱で妻子を残して赤紙で召集され、死んだ人たち）を見落とすことになる。
- * しかし特攻隊を志願した学徒兵は多い。蜷川壽恵は、特攻作戦戦死者における陸軍士官の70%、海軍士官の85%が、幹部候補生、特別操縦見習士官、予備学生・生徒出身という学徒出身者で占められており、「学徒出陣も・・・・正規軍人コースを進む士官の尖兵としての役割に充てられたのではないか」と言っている。



ゲートルの巻き方を
説明する白井氏



「中学生だった戦時中は勤労労働員で電機工場に勤めていた」と話す白井厚名誉教授。「経済学の勉強をするのにも役立つましたね、僕は現場で働いたぞと」

（東京都港区の慶應大）

「それまで研究室で古大況にあつたと思います」と、慶應大経済学部の白井厚名誉教授（81）は社会思想史Ⅱ（講義）を退る。今から20年前の1991年（学徒出陣）の研究に準じた。大学生などに認めていた従軍予が停止されたのは43年10月、20歳に達した学生・生徒は学年中であつても戦へと駆り出されることがあった。慶應大の教員は翌日の日中開戦以降、2223人が戦没した」とが確認されている。この「2223人」は、白井名譽教授が「学徒出陣」の研究過程で2223人とも振り回している。慶應大は、生徒らと並んで、2016人の戦没者名簿を2007年には改訂版を刊行した。それまで同大の戦没者は916人。2年分かかっておらず、一大字にお学率はわずか2%程度だ。大学進

12.8～8.15 応う
— 日米開戦70年 — 中

2011.12.5
神奈川新聞

慶大の地域別戦没者数

主な戦没地（当時の呼称）	人数
フィリピン	500
中国	360
日本本土	217
ビルマ	151
ニューギニア島	145
沖縄および南西諸島	129
マリアナなど内南洋諸島	117
満州	112

白井厚編「アジア太平洋戦争における慶應義塾関係戦没者名簿」から100人以上を抜粋

募集中

「学徒出陣」と大学

「国策協力は現在にも続く」

（次回は7日掲載）

お知らせ

日吉の戦争遺跡ガイド養成講座

～戦争遺跡を歩いて平和の語り部になろう～

毎年 2000 名余りの見学者が訪れる戦争の遺跡・日吉台地下壕のボランティアガイド養成の実践講座です。戦争遺跡を保存するだけでなく、二度と悲惨な戦争をくりかえさないために活用していくにはガイド活動が不可欠です。物言わぬ遺跡にガイドの案内を加えて歴史を語ってもらいます。この活動をいっしょにやってみませんか？

第1回 3月17日（土）慶應大学日吉キャンパス来往舎・大会議室 13時～15時半

《ガイド活動の概要》日吉台地下壕について・日吉台地下壕保存の会の活動

☆ 地下壕見学会 保存の会が行っている定例見学会です 実習として参加していただきます。 3月31日（土）日吉駅集合 13時～15時半

第2回 4月14日（土）来往舎・大会議室 13時～16時半

《日吉の丘 フィールドワーク》ガイダンス・日吉キャンパスの丘を歩く

☆地下壕見学会 4月28日（土）ガイドの補佐

第3回 5月12日（土）来往舎・中会議室 13時～15時半

《日吉・東急沿線空襲の実態》横浜大空襲と日吉周辺の空襲について

☆ 地下壕見学会 5月26日（土）ガイドの補佐

☆

第4回 6月9日（土）来往舎・中会議室 13時～15時半

《連合艦隊司令部がおかれた寄宿舎の歴史と現状》戦前戦後の使われ方・建築物的価値

☆ 地下壕見学会 6月23日（土）ガイドの補佐

第5回 7月14日(土) 来往舎・中会議室 13時~15時半

《まとめ》ガイド活動の役割と意義、私たちのめざすもの・フリーディスカッション

定員 30名(高校生以上)

参加費 2000円(全5回分) 見学会は各回300円(保険料)

申込先 ハガキ又はFAXで、①住所 ②氏名 ③電話番号をご記入の上、下記「ガイド養成講座」係へお申し込みください。〆切 3月3日(土)

横浜市港北区下田町2-1-33 喜田方 「ガイド養成講座係」

TEL&FAX 045-562-0443(午前・夜間)

報告

慶應義塾大学(日吉)寄宿舎が「横浜市歴史的建造物」に認定される

運営委員 亀岡敦子

2011年10月、横浜市は慶應義塾日吉キャンパスの寄宿舎(日吉寮)の南寮と浴場棟を、この年の「横浜市歴史的建造物」に認定しました。当会にとって8月の戦蹟保存全国シンポジウムが盛会のうちに終わり、ホッとしていたころ飛びこんできた朗報です。

「横浜市歴史的建造物」とは、「横浜らしい景観をつくりだしている歴史的建造物」を、都市の貴重な資源としてまちづくりにいかすために、1988年に定められた「歴史を生かしたまちづくり要綱」にもとづいた制度で、日吉寄宿舎は81件目の認定建造物にあたります。認定理由を横浜市は次のように述べています。

「慶應義塾大学(日吉)寄宿舎は、昭和9(1934)年の日吉キャンパスの開設に伴って建設されたもので、南寮・中寮・北寮の3棟と浴場棟から構成されており、慶應義塾にとっても最初の本格的かつ近代的な寄宿舎です。戦前に建てられた高等教育機関の寄宿舎で現役のものとして希少なものです。

設計は、日本のモダニズム建築の先駆者の1人である谷口吉郎によるもので、タイル張りのシンプルな外観を特徴とし、浴場棟は開放的かつモダンなつくりから「ローマ風呂」とも呼ばれました。

東横線日吉駅と慶應義塾日吉キャンパスの開設は、横浜の郊外発展の歴史にとって貴重であり、横浜の近代史の証人であるとともに、寄宿舎と周辺の緑地が一体となった良好な景観を形成しています。

戦時中の海軍への貸与、戦後の米軍による接收などを経て、現在、中寮のみが寄宿舎として使用されていますが、老朽化の進んでいる外観を、できる限り創建当時に近い状態に復元



しながら、南寮を寄宿舎として再生し、中寮の機能を移転するとともに、浴場棟も活用の検討を進めながら改修される予定です。」(都市整備局都市デザイン室発表より引用)

当会は20年以上の地下壕案内や展示などの活動においても、日吉寮の歴史とその重要性は語り継ぎました。海軍貸与時は、南寮は連合艦隊司令長官をはじめとする将官たちが起居し、眺望絶佳の西端に位置する浴場には昼間から湯が溢れていたといわれます。また戦後は4年もの長きにわたり米軍に接收され、寮生たちは、野球部合宿所や大倉精神文化研究所の宿泊施設富嶽荘、中島飛行機製作所の寮などをさまよう結果となってしまったのです。

南寮は、現在改修工事がすすんでおり、寄宿舎としての本来の姿に戻り、やがて浴場棟も改修されるでしょう。認定されてはいないけれど、認定された2棟と同じくらい重要な中寮と北寮も含めて、どのように改修し利用するかは、慶應義塾と横浜市と、横浜市民であり、保存と活用を訴えてきた私たち日吉台地下壕保存の会に突きつけられた、大きな課題であるといえるのではないでしょうか。

報告

慶應義塾大学寄宿舎南寮見学記

運営委員 谷藤基夫

2011年10月1日(土) フェスタ日吉の開催された午後1時から、日吉キャンパス事務センターの御好意で日吉寄宿舎南寮の見学を行うことができました。日吉台地下壕保存の会結成以来20数年、諸般の事情から見学することができなかつた寄宿舎を見学できたことはまさに千載一遇の機会であり感謝に堪えないことでした。荒れてボロボロの寮建物は改修され、寄宿舎として利用に耐えられるものになると言います。

この寮を見学する際は戦前の学寮時代、戦中の海軍使用時代、戦後の米軍使用時代、戦後大学返還後の4つの時代を潜ってきた建物であることを当然ながら念頭に置く必要があると思います。南寮入口より入ってすぐ左側1F舍監室奥の戸棚内側に墨字で舍監の方が撤去に際し残されたと思われる書付「さらば 南寮 心のわが家よ 今別離にのぞんで感無量 泣して私は去りてぞ行く さらば 南寮最後の日」心に響く書付にこの寮の過ごした幾星霜の波乱の歴史を思い、読む者も感無量となるものでした。1階は廊下といくつかの部屋、奥が食堂になり、電気の配管などがむき出しになっていました。食堂には当時の学生が読んだであろう書籍が残され、うち一部は保存のため移動しましたが、戦前の激動の時代の中勉学に励んだ寮の学生たちの向学心の強さが強く感じさせられるものでした。廊下の壁には米軍が書いたと思われるFIRE HOSE、FIRE EXITなどの赤い文字と矢印が目を引きます。トイレは当初から洋式で、和式の便器は苦手な米軍にとってはこの寮の便器は格好の物だったと思います。南寮は豊田副武司令長官以下将官クラスが使用したという正に歴史的価値の高いところで、3階の奥の部屋は司令長官が使用したと聞きます。豊田、小沢両長官はこの部屋にあって、どのようなことを思念していたのでしょうか。屋上にも上がらせていただきましたが、眺望良く、遙か横浜港付近と思われるビル群まで見渡せます。自然が多く残された時代には戦争さえなければ、桃源郷と言われた場所だったということもうべなるかなと思うこと頻りです。

今後見学が許されるなら、見る人に戦争の時代を思い、イメージを豊かに膨らませられる、また歴史を正しく理解し、深く考えられる場になってくれればと思います。またこの寮の歴史的位置づけと詳細が今後の歴史的検証とともに、更に明らかになっていくことを願っています。

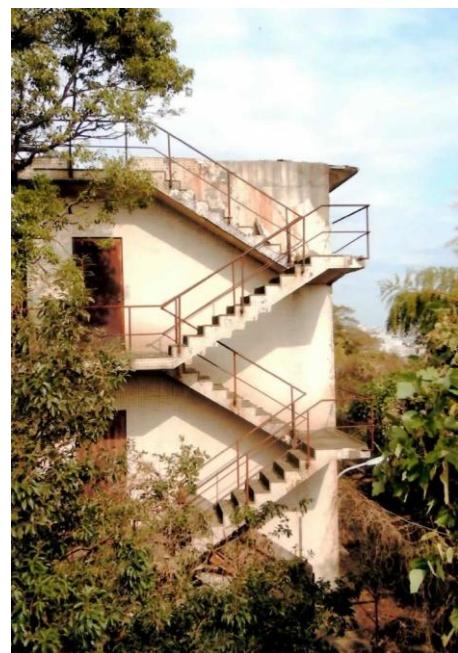
2012年1月20日(金) 第104号

(9)

寄宿舎南寮内部の写真(2011.10.1)



南寮南側



南寮側面階段



廊下



部屋の中のベッド



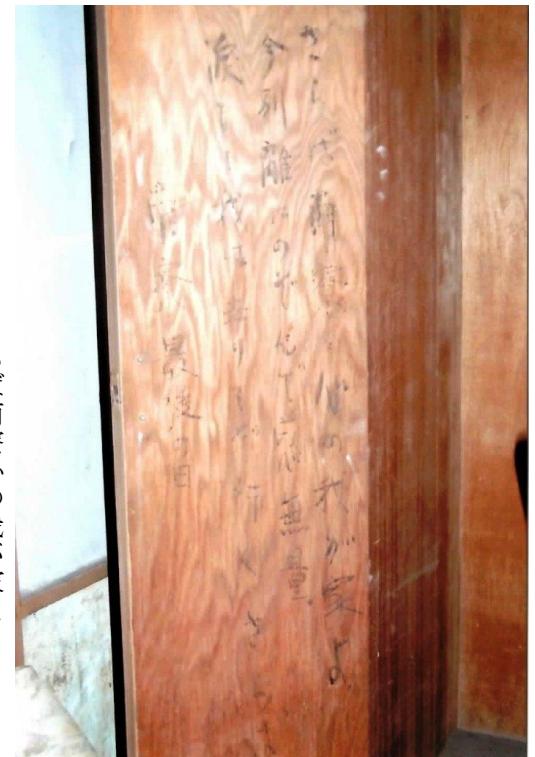
床暖房の配管



洋式トイレ



南寮内の戸棚
内部に墨で書付がある(右写真)



ローマ風呂の屋根(銅板ふき)



ローマ風呂の内部

2011 第3回かながわ新聞感想文コンクールより転載

中学1年生の部 優秀賞

“戦争遺跡を残す”とは

湘南白百合学園中学校1年生 阿部 みのり

八月に入り、今年も終戦記念日関係の記事が多くなっていた。いくつか興味深い記事があつたが、その中で神奈川県内に点在する戦争遺跡を保存していくと提案する記事を見つけた。その記事には神奈川県内に残っている戦争遺跡がどこにあるのかがわかる地図と草におおわれた野島掩体壕の写真があった。私は、その地図上にある横浜市に住んでいるが、これら

の遺跡が存在することを知らなかった。記者が訪れた横須賀の貝山地下壕のある辺りも横浜の野島掩体壕のすぐ近くにも行ったことがあるのに全く気付いていなかった。

貝山地下壕は、旧海軍が本土決戦に備えて掘った壕だが、工事半ばで終戦を迎えたらしい。貝山緑地の雑草をかき分けて登った丘の中腹に入口があるという。

野島掩体壕は、空襲から航空機を守る格納庫として建設された巨大なトンネルで、今は公園の真ん中にある。保存運動家の訴えによって、昨年、案内板が設置されたそうだ。

終戦から年月が経ち、そのまま残されていた地下壕や戦争跡地は古くなったり都市開発で失われつつあるのが現状だという。そしてそれらを保存していこうと活動している人々のことも記されていた。

この記事を読んだ数日後、私はちょうど明治大学の科学実験教室に参加する予定があったので、今回の記事で紹介されていた、旧陸軍登戸研究所を訪れてみることにした。

高台にある明治大学生田キャンパス内の片すみに、「明治大学平和教育登戸研究所資料館」はあった。

ここは旧日本陸軍が秘密戦に備えて研究・開発を行っていた研究所の跡地にあり、そこで行われていた活動を分かりやすく展示している。

敵国に見つからないように、季節風にのせて飛ばした風船爆弾の模型が資料や説明と一緒に展示されていた。生物化学兵器やスパイ用品を開発していた様子なども分かりやすく解説されていた。どれも高度な技術を必要とするもので、きっととても優秀な人たちが研究・開発に携わったに違いない。でも、それらは人を殺すための技術であり、実際に使用されたのだと考えたら、恐怖と悲しみで胸がいっぱいになった。

このような資料館は決して訪れて楽しい場所ではないと思う。しかし、戦争で何が行われたのか、秘密裏にどんな研究がされていたのかを人々に知ってもらうことが重要であり、それが平和運動のひとつになるのだと思う。

帰宅して、もう一度新聞記事を読んでみた。戦争を語りついでくれる人が少なくなってきて、せっかく残してきた戦争遺跡が失われてしまうことに危機感をもつのは当然だ。しかし、今のように草むらの中で存在を知られずにおいておくだけでは意味がないと思う。せっかく保存するのであれば、できるだけ多くの人に知ってもらい、訪れてもらい、一人一人が歴史と化してしまった戦争を少しでも体感できるような残し方ができればよいと思う。

私は今回、遺跡の一つを訪れるこによって、戦争について知らなかった事柄を知ることができただけでなく、戦争は身近な出来事だったと思うようになり、恐怖や悲しみを強く感じた。そして平和な世の中を心から望んだ。

(8月14日朝日新聞記事を読んで)

報告

横浜の3つの外人墓地をめぐるツアーに参加して

金子 憲

前夜の暴風雨はなんだったのか、秋晴れとはこんな日のことをいうのであろう、素晴らしい晴天下、JR根岸線山手駅、改札前に9時30分に参加者13名が集合する。

当初の計画では慶應義塾日吉キャンパスから、マイクロバスで3つの外国人墓地を回る予定であったが、当日が横浜女子国際マラソンの開催日と重なっていて、交通渋滞が予測されたため、最寄りの駅からタクシーで行くことに変更されたのだ。

13名の参加者とガイドの手塚さん夫妻の計15名で回ることになったので、3台のタクシーに分乗するには都合がよかつた。

最初の訪問墓は、横浜生まれの私たちは‘南京墓’と呼んでいる‘地蔵王廟’であった。この近くにはなん度も来たことはあるが、廟に入ったのは初めてである、地蔵王廟の文字が右から書かれた門をくぐり、階段をあがったところが地蔵王廟であった。

手塚さんの説明によると、この廟のレンガの壁は中国の建築様式で、地震などで壁が崩れないための鉄の釘みたいで、ヤモリが登るような形をした螻蝗攀(マコウハン)と呼ばれている、珍しい金物が取り付けられていた。

また門に入った左側にある建物は‘安靈堂’といわれ、日本で亡くなった方の遺体を中国に送り出すための一時的な安置所であった、と聞いて驚くばかりであった。

墓地には関東大震災でなくなった方の墓石が多く見られ、更に上ると旧根岸競馬場の三塔が見え、墓地を出て少し歩いたところに‘米国政府使用施設・立ち入り禁止’の看板が見えた。そこは戦後66年経った現在でも、金網で隔てられた米軍根岸基地であった。

次はそこから10分位歩いた所にある‘根岸外国人墓地’に行く。この墓地はおなじ外国人墓地でありながら、山手の外国人墓地と比べ、ひっそりと歴史に忘れられていたような感じがした。

この墓地には、近くに住んでいた外国人や関東大震災の被害にあった外国人が埋葬されているが、戦後はほとんど放置されたままで、一時はボランティア任せになっていたそうだ。

ここにはドイツ水兵の墓がある。1942年11月30日、横浜新港埠頭に停泊していたドイツの輸送船ウッケルマルク号が爆発事故を起し、近くに停泊していた3隻も爆発して102名もの死者が出て、このうちドイツ兵が61名、将校クラスが山手外人墓地に埋葬され、そのほかの兵がこの墓地に埋葬されたそうだ。

また、ここが一時有名になったことがある。それは戦後の混乱期に生まれ、死体で放棄された混血の嬰児が800～900体も、非公式に埋まっているという話だ。

‘山手外国人墓地に毎夜、遺棄されたのを、当時の墓守りが持ってきて埋めたそうで、進駐軍兵士と日本人娼婦との間にできた子供だった’と聞いたことがある。

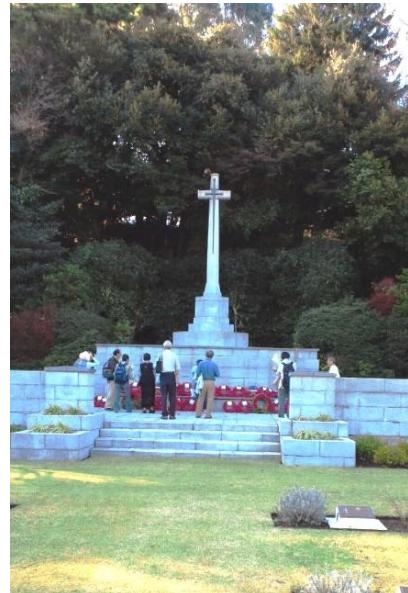
墓地を後にするとき、山手ライオンズクラブによって建てられた墓地案内板を見ると、説明文の最後に‘異国の地に眠る故人の永遠の安息を祈る’と記されており、深く考えさせられた。

午後は山手駅前の食堂で食事をして、横浜経由で保土ヶ谷駅に出てタクシーで英連邦戦死者墓地に行った。ここは、第二次世界大戦のときの賠償金を、お金で払う代わりに、戦前

‘保土ヶ谷児童遊園地’という施設のあったところに、英連邦の戦死者のためのお墓を日本政府が用意したようなもので、昭和21年6月に設置され、日本にある外国人墓地では最も新しく、管理は日本政府が行っているとのことだ。埋葬者はタイやビルマなどの戦地で日本軍の捕虜になり、日本各地の収容所に送られて亡くなった方と、イギリスを始め当時の英連邦の国々、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、インド、パキスタンの他、アメリカ、オランダの戦没者も埋葬されていて、性格的には午前中に訪ねた2つの外国人墓地とは違っていた。また第二次世界大戦後の朝鮮戦争やベトナム戦争で亡くなった兵士も埋葬されている、とのことだった。

墓地は埋葬されている人の出身地ごとのまとまりまで区分されていて、芝もきれいに刈られ、手の行き届いた公園のようだった。

最後に昭和25年頃まで立っていたといわれる忠魂碑の跡で、円陣になって、手塚さんか



英連邦墓地

ら日本国内で死亡した捕虜の人数や、死因から見た捕虜の実態についての説明と質疑応答があつた。

こうした中味の濃い、外国人墓地の見学会に参加することが出来、関係者の皆さんに厚く御礼申し上げます。

次回もこのような企画がありましたら、是非参加したいと思います。

報告

三つの外人墓地をめぐるウォーキングに参加して

佐藤 宗達

11月20日、JR山手駅に新井副会長他12名が集合、手塚御夫妻の案内で三つの外人墓地を探訪した。当日は横浜国際女子マラソン開催のためバスツアーが出来なくなつたが、徒步と一部タクシー使用で、場所の確認などかえつて好都合だった。

(1) 「地蔵王廟」

中国人墓地全体を示す中華義荘（通称南京墓）に造られた地蔵を祭る廟。中華街を覗くことはあっても「墓をどうしているのか」までは考えた事はなかった。山手外人墓地から中区大芝台に移るのは1873年とのこと。JR山手駅からタクシーで根岸森林公園の脇から山元町に抜ける。

門をくぐり階段を登ると左手に安靈堂がある。かつては土葬が主で、故郷の地に葬ってもらうため棺の中に石灰を詰め遺体を保存したものがあり、修復工事で墓地整理の時収納したとのことで、日本にはない風習である。奥には関東大震災犠牲者への慰靈碑が出身地域別に建てられている。広州を主として華南地区出身が多いようだ。

地蔵王廟は1892年建造、広州からの部材が使われており銘が有る。見学中にも参拝者が来られ線香が焚かれ、いかにも中国風だという雰囲気が醸しだされた。かつては山の上の墓地だったのだろうが今や廻りは民家は密集しており、墓地だと気がつかないで通りすぎてしまいそうである。

(2) 「根岸外人墓地」

JR山手駅のすぐ近くにある。横浜市の管理で隣接する仲尾台中学の生徒が掃除のお手伝いをしている由。敷地は意外と狭く、山手外人墓地を補完するに足りたのか。眼を引いたのは墓に南無妙法蓮華経と刻んだものが数基見られた。

解説の中で第二次世界大戦中に横浜港でドイツの船が爆発事故を起こし102名が死亡、ドイツ水兵がここに埋葬されたとのことだ。戦時中のことで資料がなく詳細不詳が残念である。また戦後間もなく混血私生児900体が埋葬されたという話があったとのことだが有り得ない話ではないが、はたして900体も埋葬できたのだろうか、今後の資料検索が待たれる。

参考資料として小宮まゆみ著「敵国人抑留 戦時下の外国人民間人」（吉川弘文館）が紹介された。ドイツ船に乗船していて抑留された連合国人が福島市花園町のノートルダム修道院に収容された件が出ている。

(3) 「英連邦戦死者墓地」

JR保土ヶ谷駅からタクシーで約4キロ、市バスなら児童遊園地入口で下車。時々新聞の片隅に、英国より来日中の誰々が横浜市狩場町の英連邦墓地を訪れたという記事と写真が載る事があり気になっていた。ある日、思ひたって自転車で墓地を訪れたものの説明文がなく疑問のままだった（事務所でパンフレットを貰うなど思いつかなかった）。今回訪れて解説していただき、永年の疑問がはれた次第。広々とした芝生に並ぶ墓を眼で追いつつ全体で約2000名が埋葬されているとのことで思ったよりも多いと感じた。



地蔵王廟

参考資料として笹本妙子著「連合軍捕虜の墓碑銘」(草の根出版会)が紹介された。ここに埋葬された人の追跡調査が出ている。

墓地の奥、小高い丘には忠魂碑の基礎部分が残ってる。昭和5年建設とのことだ。忠魂碑、戦前の方々はご記憶にあるのだろうか、町内の長老にインタビューしてみます。

報告

矢上小学校地下壕見学後記

運営委員

長谷川崇

2011年11月26日快晴の中、矢上小学校秋の行事の一環として「フェスタ矢上」が開催され、各学年の生徒による色々な発表(矢上川について、弥生時代の生活、米が出来るまで等、そして日吉台地下壕について)がありました。11月11日6年生3クラス90名の地下壕見学のあと、担当の石川先生より後日フェスタ矢上にて生徒が発表するので参観との話を頂きました。当日は発表を楽しみに訪問しました。



色々な出し物の陳列が各学年毎に賑やかに行われて、其の中で6年生の教室の前に大きな模造紙いっぱい6枚に地下壕の説明文が明記され、工事の時期、連合艦隊の役目、沖縄決戦の命令等見学した理解度が十分うかがえました。そして教室の中に黒いカーテンの暗室を作り、地下壕をスライドショーにて4人の生徒がそれぞれ説明するという、時代に沿った装置を使っていました。書物、作画を見るより以上の状態が映し出されて、一緒にいたお母さんたちも良く理解ができたと、褒めていました。スライドショーの終わりに何問かのクイズが出され、其の一つに地下壕の長さについて三択の答えで①2600M②3200M③5900Mとありお母さんたちは①と答えました。そこで③の答えが間違えでしたので、③は5000Mと生徒に訂正をしてそれが正解になりました。

短い時間でしたが子供たちが地下壕の見学を体験して、正しく理解をしていて、戦争についていかに多くの人びとが苦しみ、又その恐ろしさが良くわかっていて、今回の発表が立派に出来ていたのには感心をして帰宅しました。

連載

地下壕設備アレコレ【その4】電線

山田 譲

日吉台の地下壕内には電線を張るための碍子が残っています。また配線のための板や角材が天井や壁のコンクリートに埋め込まれています。いろいろな種類の電線が壕内に張りめぐらされていたことは、まちがいありません。日吉台の地下壕内で使われていたと思われる電線には3種類あります。電力線、通信線、アンテナ線です。

《電力線》

電力線には電灯照明用と通信機電源用がありますが、これは2本線です。家庭用屋内配線と同じ電線です。地下壕内の天井にある木板と碍子は、あきらかに電灯用電力線の配線用です。「天井にたくさんの水滴ができる電気がショートしたり電球が切れたり」(慶應生協ニュース68号 航空本部元理事生秋元智恵子さんの投稿)したそうです。しかし朝鮮戦争の頃、金物として売るために電線はみんな持ち去られたと言われています。ガイドの長谷川さんの近所の人の話では、鉛の管で包まれた電線が壕内にあったということです。

《通信線》

しかし航空本部、東京通信隊などがあったマムシ谷東側の発掘調査で、実物の鉛被覆電線が出てきました。慶應義塾大学安藤広道研究室の調査報告書によれば、太さ1mmの銅の芯線60本を各々絶縁紙でまいた上で、全体を束にして紙テープでまき、その上に鉛のサヤがあって、さらに鋼帯がラセン状にまきつけてありました。この電線の外径は23mmです。紙テープには「住友 昭和17年製造」と印刷してあり、住友電工で戦時中に製造された通信用電線で

した。銅芯線は3色に色分けされており、絶縁紙の縁が赤色の芯線が26本、縁が青色の芯線が5本、無地の芯線が29本で合計60本です。

この電線は海軍軍艦で使われていた「鉛被鎧装線」とよばれるものとおもわれます。(『三菱長船、電気ものがたり』213ページ小田省三の回想記)。これは「ロイド規格のヘリカルアーマー(ラセン状の鎧装のこと——山田注記)を施した電線」(同書173ページ堀川源八の回想記)とも言われており、艦船内用通信線として使われていたものです。

通信線には電話線(音声通話)と電信線(モールス通信、電報用)がありますが、どちらも耳に聞こえる低周波の音を電気信号に変えて電流にするので、電線としては同じものを使います。この通信線は1回線に2本線または4本線を使います(元NTT社員渡辺清さんの話)。マムシ谷で出土した電線は芯線60本ですから最大で30回線とれます。地下壕内に電話機があつたことは元暗号兵の栗原啓二さんが証言しています。(2010年5月29日聞き取り)。そして壕内には東京通信隊もいたわけですから、この30回線の内から電話用と電信(モールス通信)用を分けていたとおもわれます。同様の通信線が連合艦隊司令部の地下壕にも配線されていたはずです。電信室の入口の下部には、コンクリートの壁をつらぬいて、トンネル側に四角い穴が開いています。20×30cm位の穴です。電源コードや通信ケーブルが通っていたものと思われます。

《アンテナ線》

アンテナ線の場合には電線は1本線で足りますが、2本線にする場合もあります。これは短波または中波の電波をアンテナで受けて、その高い周波数の電気信号を受信機まで送る電線です。流れる電流は微弱なので太い電線は不要です。

ただアンテナ線は長すぎると、高周波電流の特性として電気抵抗が発生して、電流が弱くなってしまいます。ですから蟹ヶ谷の東京通信隊の大アンテナと、日吉の地下壕を結ぶとすると、どこかで信号電流を増幅する必要があります。そのためには途中で電話局を経由していないと不都合だとおもわれます。蟹ヶ谷通信隊からは「ケーブルで海軍省の方へ受信内容を伝えた」「日吉の連合艦隊司令部にもケーブルでつながっていた。」(慶應生協ニュース63号 蟹ヶ谷通信隊元隊員T.H氏の話)と言われています。ただここで言われている「ケーブル」は電話線または通信線の可能性が高いようにおもいます。

日吉の寄宿舎にアンテナが立てられていたという話もあります。これは当然必要なわけで、蟹ヶ谷からアンテナ線を引いてあったとしても空襲などで断線した時の備えがいるわけです。どちらにしても、このアンテナ線は地下壕内の電信室につながっていたわけです。地下の長官室の横の壁には、木片が多数埋め込まれています。あれは通信用の配線の跡ではないかと私はおもっています。その中にこのアンテナ線も引かれていたはずです。ただアンテナとアンテナ線については、証言も少なくよくわかりません。というより電気関係は、碍子と台座が残っている程度でわからないことだらけです。

そういうなかで、マムシ谷の発掘調査で通信ケーブルが出てきて、安藤先生の研究室で詳細な調査がされたことは、日吉の地下壕での海軍の活動実態を知るうえで貴重な成果です。調査に当たられたみなさんにお礼申し上げます。

お知らせ

第7回 日吉をガイドする講座 『大倉山と海軍気象部』

講師 林 宏美氏 (大倉精神文化研究所)

日時 2012年2月25日(土) 13時~15時

会場 慶應義塾日吉キャンパス 来往舎大会議室

東横線大倉山の小高い丘にそびえる白亜の大倉山記念館は、太平洋戦争末期の1年間、海軍気象部が使用していました。このことは、『横浜市史』にも記載はなく、日吉との関係についてもほとんど知られておりません。一般向けの講演でははじめて取り上げられる内容です。

活動の記録 2011年10月～12月

- 10/13 地下壕見学会 湘南自衛隊父兄会 25名
 10/14 運営委員会 会報103号発送(慶應高校物理教室)
 10/15 地下壕見学会 寮和会(慶大寄宿舎OB会) 54名
 10/18 地下壕見学会 かながわ医療生協・ポップの会 30名
 10/22 定例見学会 39名
 10/24 地下壕見学会 川崎退職教員互助会 40名
 10/29 ガイド学習会 (菊名フラット)
 11/9 地下壕見学会 川崎プロバスの会 21名
 11/11 地下壕見学会 矢上小学校6年生・先生 95名
 11/14 運営委員会 (慶應高校物理教室)
 11/17 地下壕見学会 川崎教育文化会館 9名
 11/20 横浜3つの外人墓地をめぐる
 ツアー(英連邦墓地他) 13名
 11/26 定例見学会 51名
 12/8 地下壕見学会 川崎医療生協 14名
 12/10 第6回日吉をガイドする講座
 藤山記念館会議室
 「慶應義塾における《学徒出陣》」講師 白井 厚氏 33名
 12/13 地下壕見学会 洗足学園高校
 1年生・先生 12名
 12/17 定例見学会 31名
 12/19 運営委員会(慶應高校物理教室)



12月17日定例見学会
 (イチョウの木が印象的です)

予定

- 1/20 運営委員会 会報104号発送(慶應高校物理教室)
 ☆ 地下壕見学会 定例見学会 毎月第4土曜日 13時～
 1/28(締切りました)・2/4(第1土曜日)・3/31(第5土曜日) 4/28

☆地下壕見学会は予約申込が必要です。

お問い合わせは見学会窓口まで 045-562-0443 (喜田 午前・夜間)

連絡先(会計)亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-2758

(見学会・その他)喜田美登里: 横浜市港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443

ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報

(年会費) 一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会

郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 大西章

(加入者名) 日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会運営委員会